

里山の自然に触れてみよう

対象：小学校 6 年生

人数：30名～40名

教科/分野：総合的な学習時間（理科・社会）

授業時間数：年間 8 回（10:00～12:00）

場所：里山・学校

ESD プログラムへの想い	<p>◇我々の里山には 4500 坪の竹林と畑地、子供たちの為の遊園設備があります。</p> <p>◇山中には水が湧き多くの昆虫と植物が生きています。この自然を守り維持していくには、自然を知り此処に生きる多くの生物たちの生態を知らなければなりません。</p> <p>◇四季を通じて繰り返す自然の営みを体感し、放置すれば短期間で荒廃していく自然を教え、生物たちがそれぞれに生きていける環境の整備が如何に大切であるかを、我々の里山活動を通して気づいて欲しいと思います。</p>
目標	<p>◇学習者である子供たちが、山は生きているということを知り、良好な自然環境を維持し守ることが、自分の生活(人間営み)を守ることにつながることを自分自身で考えることになること</p> <p>①里山の多様な動物・植物を知り、山は生きていることを理解する ②竹の構造・特性を理解し、竹の密集が他の樹木に及ぼす影響を知る ③生息する昆虫類、群生する植物と水そして太陽光の関係性を知る ④里山整備活動を通じて、人と人が助け合い共に働くことの大切さを学び、学校生活に活かす</p>
特徴	<p>◇総合的な学習(環境学習)として一年を通して季節毎の里山の変化を体感できる。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・里山に生息する多くの昆虫類・植物の生態観察／畑では土作りから収穫そして食べるまでを体験する／竹や木の間伐・運搬／竹炭作り準備～窯出し～竹炭利活用まで、里山からの恵みを体感できる。 <p>◇一年を通じて体験し記憶に残ったことをベースに、個々の活動振り返りとして「里山活動まとめの発表」を行う（2月）</p>
持続可能な社会づくりの構成概念	<p>◇多様性：里山という小さな空間の中にも、混在している多様な生物たちの生命の循環があり、其処に関わる我々人間との共生の大切さを知る。</p> <p>◇相互性：思いを同じくする仲間との連携は勿論のこと、他人事とは思わず自然環境の維持継続が如何に大事であるかを認識する。</p> <p>◇責任性：自然破壊を助長する要因の一つは[人間の必要性から自然を開発し利便さを享受し、必要性がなくなれば放置したこと]。一度人間が大自然に「手」を入れたらとことんまで面倒見ることの大切さを知り広めること。</p> <p>◇連携性：自然の崩壊が我々の生活に及ぼす影響は計り知れない。だからこそできるところから里山活動を通して自然保護活動、地球温暖化防止、持続可能な開発推進の関係者と連携していく。</p>

重視する能力・態度 「ESD 環境教育モデル アーツラムカット」	◇竹の成長スピードは速く放置すれば短時日で荒廃していく。自然はどう向 き合うべきなのか…里山での体験を通じ考えるきっかけを掴むこと ② ◇陸の豊かさを守るのは再生にあることを念頭に再生活動を継続すること ⑤ ◇自然と人間とは共生しているということを十二分に理解出来ること ⑥
--	--

プログラムの流れ（ESD カレンダー）

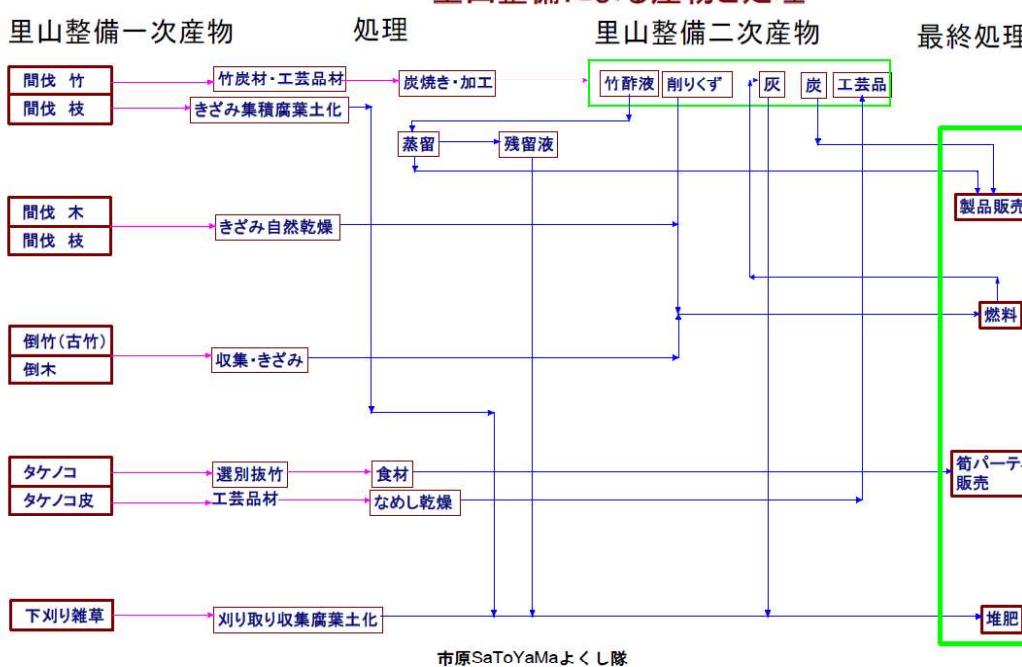
時間	ねらい	方法 場所	内 容
6月	初めて触れるだ ろう里山の自然 に馴染む	里山	◇オリエンテーション（里山とは何か／竹の構造・性質について 里山見学：遊歩道を歩いてみよう） ※里山で何を見て何を触ってどう感じたのか・・フリートーク
6月	竹を素材に自分 の手で竹細工を 作ってみる	学校 (体育 館)	◇竹細工作り体験講座（竹トンボ・竹ぼっくり・イニシャル熱線 彫刻・写真/鉛筆立て・ビュンビュンガエル） ※竹に触れ削り曲げてみる
7月	竹の生い立ちを 知る事で竹林の 維持管理の大切 さを意識する	里山	◇7月の里山自然観察と里山整備 ・竹の間伐／構造を記録「全長・太さと厚さ(根元・中間・先端) 節数・枝出し位置と数」 ◇ジャガイモ試食会 ※竹の生態を理解することと間伐の重要性を教える
9月	里山の整備に参 加して作業の大 変さを体感する	里山	◇9月の里山自然観察と里山整備 ・倒木・古木・枯れ竹・枯れ枝を山から麓に降ろす ※山の作業は不注意で怪我をする危険があり慎重に作業を進める
10月	一同上一	里山	◇10月の里山自然観察と里山整備　　・遊歩道階段修理作業 ※資材の切り出し、斜面での作業の大変さを体験する
11月	伐採した竹を割 り竹炭焼きの準 備を体験する	里山	◇11月の里山自然観察と竹炭焼き① ・竹炭つくり（竹割・重量計測・充填・土かぶせ・着火） ※準備段階から窯出しまで一連の作業を通じて竹の変化を体験
11月	初めて作った竹 炭を手にして感 じることは・・	里山	◇竹炭焼き② ◇記念植樹／記念集合写真撮影 ・竹炭つくり(窯出し・重量計測／記録) ◇里芋／薩摩芋試食会 ※窯出しを体験、竹炭・竹酢液等竹の有用性を知る
2月	里山体験活動で 知り得たことは 何か・・・	学校 (教室)	◇里山年間活動のまとめ発表 ※年間8回16時間の野外学習で何を感じ、自然との共生をどう捉 えたのか・・発表内容をベースに次の6年生に向き合う
SDGs との関連性			◇竹は観賞用を含めあらゆる部分が利用できるゼロエミッション植物。その利 用価値を認識し、多くの荒廃した竹林を蘇生させることはそこに共生する多様な生 物もまた蘇生させていくものと考える。（4）（11）（15） ◇良好な自然環境を守り維持することが生活環境の向上にも資すると言 うことを理解し、自然の保護に取り組む。（11）（14）（15）（17）

学校・地域等との連携上の考慮	◇このプログラムは市原市不入斗にある有秋東小学校（6年生）との綿密な打合せを基に 2008 年から取組まれていますが、限られた時間の中で子供たちに伝えたいこと逆に子供たちが知りたいことなど選択肢の幅も拡げて実施します。 ◇ESD の観点から 6 年生は里山で学習（環境学習）、5 年生は社会福祉体験、4・3 年生は「立野川環境学習」、2・1 年生は学校内ビオトープ観察を総合的学習で取り組んでいる地域の学校を応援していきます。
対象を発展させる可能性	◇同様の意図で結成されている自然保護グループが多く有り、同グループとの連携を深めていきます。
その他補足事項	◇活動状況は Facebook : 市原里山よくし隊「竹・いろりの里」で紹介しています。

プログラム作成者名（団体名）：小坂大樹（SaToYaMa よくし隊）

＜竹についてのテキスト例＞

竹林整備と有効利用 里山整備による産物と処理



市原 SaToYaMa よくし隊

- 8 / 12 -